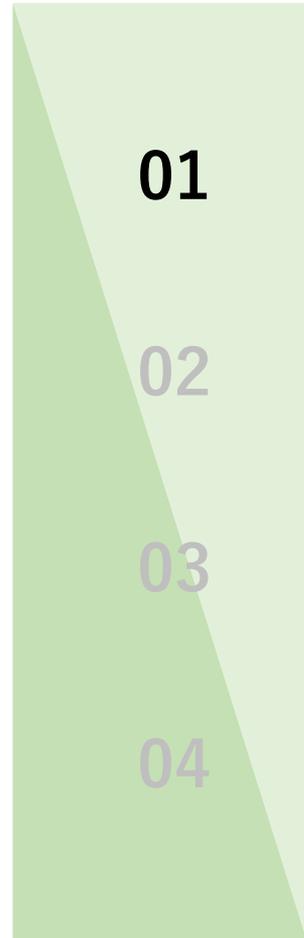


2024年11月期

決算説明会資料

見えないけれど、あなたのそばに





01

2024年11月期 決算概要

02

2025年11月期 業績予想

03

企業価値向上のための取組み

04

参考資料

外部状況

国内では景気が緩やかに回復する一方で、欧米の高い金利水準や、中国不動産市場の停滞がリスクとなっています。また、物価上昇、中東情勢、金融資本市場の変動等、依然として先行きは不透明な状況が続いています。

売上高

化成品事業の販売が好調に推移し、電子材料事業の販売が回復してきたことなどにより、売上高は前年同期比13.1%増加し、326億9千8百万円となりました。

営業利益

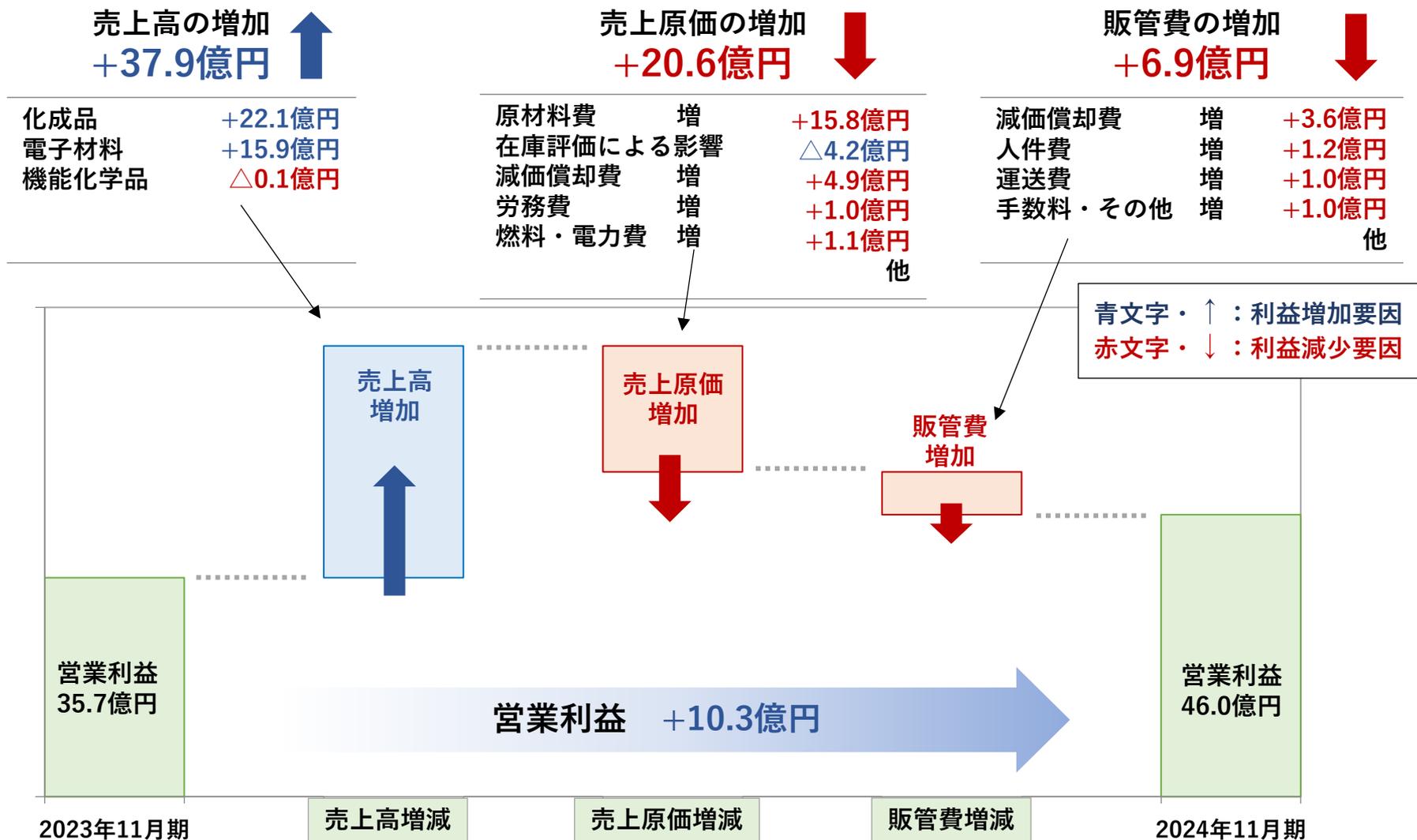
減価償却費は増加しましたが売上高の増加などにより、営業利益は前年同期比28.8%増加し、46億8百万円となりました。

(百万円)

	2023/11 実績	2024/11 予想値	2024/11 実績	前年比	
				増減額	増減率
売上高	28,907	32,000	32,698	+3,791	+13.1%
営業利益	3,577	4,200	4,608	+1,031	+28.8%
経常利益	3,877	4,400	4,753	+876	+22.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,270	3,700	4,044	+773	+23.7%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	68,150	70,000	75,600	—	—
為替 (¥/\$)	140	145	150	—	—

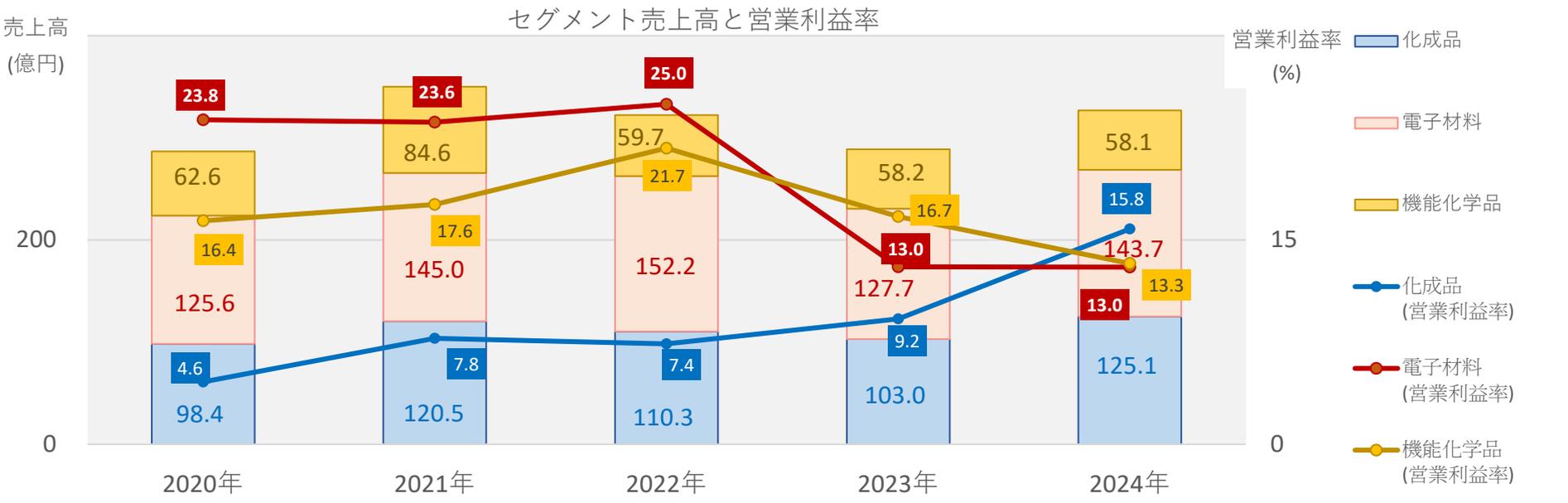
営業利益の増減要因

在庫評価は利益増加要因となりましたが、減価償却費・労務費・燃料費・電力費・運送費などが増え、売上原価・販管費とも増加しました。化成品・電子材料の売上高が大きく増加したことなどにより、営業利益は前年比で、10.3億円の増益となりました。

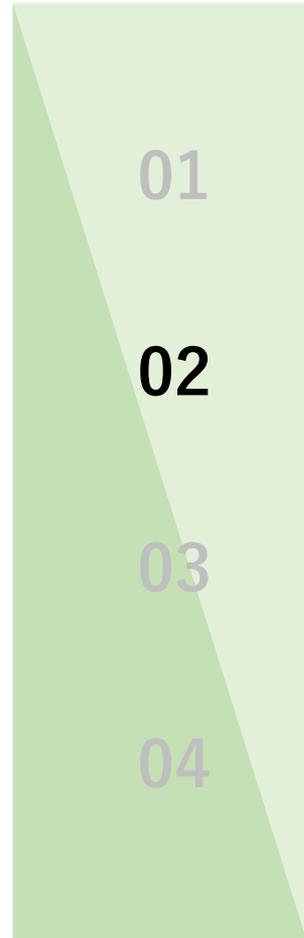


セグメント実績

	化成品	電子材料	機能化学品
概要	◇自動車用塗料向けの販売は減少。 ◇ディスプレイ用粘着剤向けの販売が大幅に増加。 ◇UVインクジェット用インク向けの販売も増加。 ◇メタクリル酸エステルグループは、販売が好調に推移。	◇半導体材料グループは、最先端のEUVレジスト用原料は大幅増。主力のArFレジスト用原料は、回復傾向にはあるものの想定を下回る。 ◇表示材料グループは、タッチパネル用絶縁膜向けの販売が増加するもグループ全体では横ばい。	◇化粧品原料グループは、販売が海外で好調に推移。 ◇機能材料グループは、受託品の販売が低調に推移。 ◇子会社の高純度特殊溶剤等の販売は堅調に推移。
売上高	125.1 億円 (YoY: +21.5%)	143.7 億円 (YoY: +12.5%)	58.1 億円 (YoY: △0.3%)
営業利益	19.7 億円 (YoY: +108.7%)	18.6 億円 (YoY: +12.4%)	7.7 億円 (YoY: △20.8%)



* 2022年度より「収益認識に関する会計基準基準」等を用いる



01

2024年11月期 決算概要

02

2025年11月期 業績予想

03

企業価値向上のための取組み

04

参考資料

通期業績予想

2025年11月期は半導体市場では23年を底に緩やかに回復基調、化成品・機能化学品の市場も堅調と見込み、当社の売上高は13億円増収の340億円と予測しております。また、減価償却費の減少などにより営業利益は3.9億円増益の50億円と見込んでおります。

(※純利益の減少は主に、前期に特別利益が多く発生した影響)

(百万円)

	2024/11 実績	2025/11 予想	対前年実績	
			増減額	増減率
売上高	32,698	34,000	+1,302	+4.0%
営業利益	4,608	5,000	+392	+8.5%
経常利益	4,753	5,200	+447	+9.4%
純利益*	4,044	3,500	△544	△13.5%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	75,600	75,000	—	—
為替 (¥/\$)	150	155	—	—

* 親会社株主に帰属する当期純利益

2024年11月期 売上高	2025年11月期 予想	比率 2024vs.2025(予想)
125.1 億円	129.0 億円	+3.1%

● 外部環境

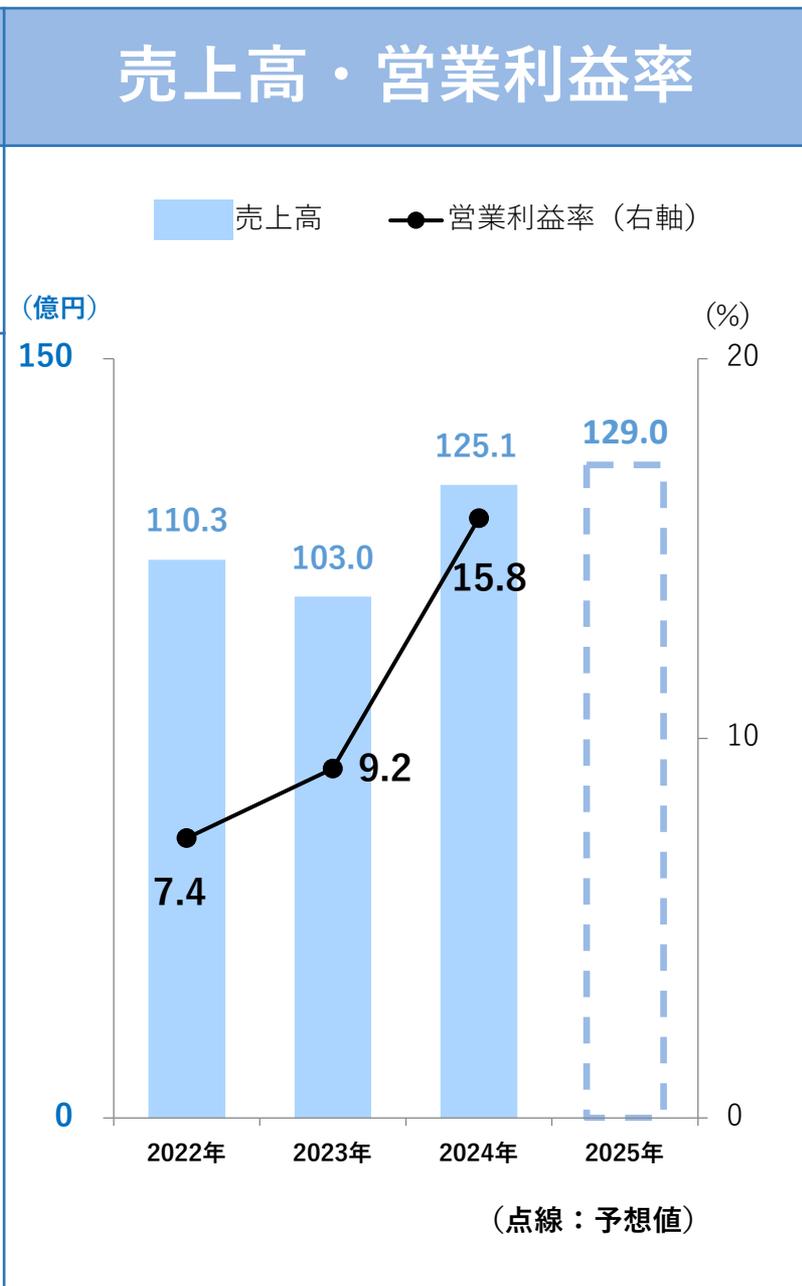
- ・ 自動車生産は国内で次第に回復。グローバルでも概ね堅調に推移。
- ・ ディ스플레이関連では大型テレビの市況がやや停滞。

● 当社の状況

- ・ 自動車用塗料向けの販売回復に注力。
- ・ ディ스플레이用粘着剤向けの販売はシェアアップにより高水準で推移。
- ・ UVインクジェット用インク向け材料は堅調に推移。

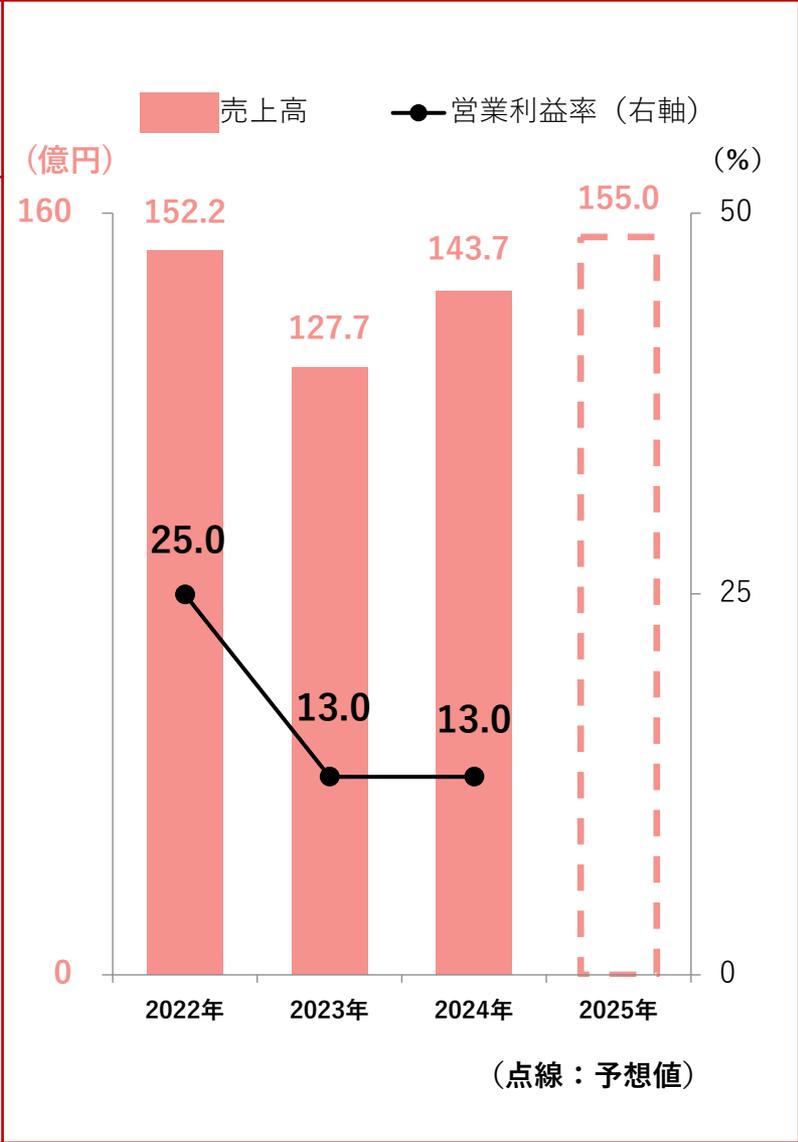
● 市場におけるリスク

- ・ アメリカの政権交代に伴う関税強化。
- ・ 天然由来原料相場の高騰。
- ・ 急激な為替の変動。



2024年11月期 売上高	2025年11月期 予想	比率 2024vs.2025(予想)
143.7 億円	155.0 億円	+7.8%

売上高・営業利益率



● 外部環境

- ・半導体市場は緩やかに回復。
- ・最先端のEUV材料は引き続き好調に推移。
- ・ディスプレイは液晶からOLEDへシフト。

● 当社の状況

- ・主力のArFレジスト用原料の販売は回復が進む。
- ・EUV用途の材料は好調が継続。
- ・ディスプレイ関連の新規材料が伸長。

● 市場におけるリスク

- ・米中経済対立の激化。

2024年11月期
売上高

2025年11月期
予想

比率
2024vs.2025(予想)

売上高・営業利益率

58.1億円

56.0億円

△**3.6%**

●外部環境

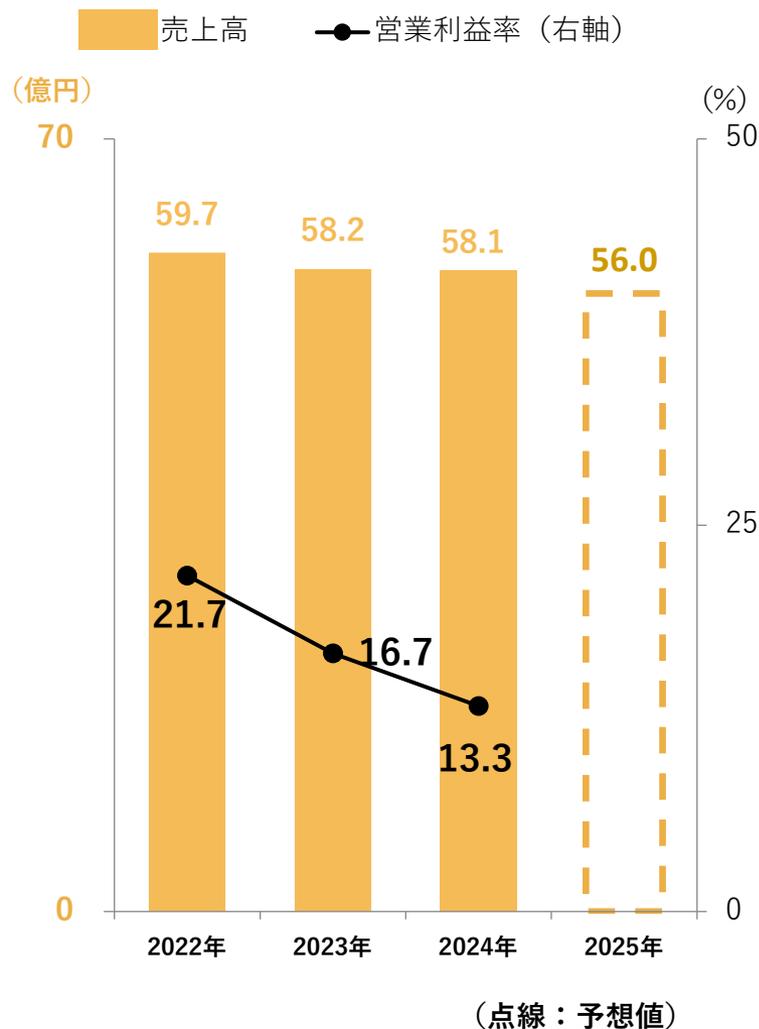
- ・国内の化粧品市場は堅調に推移。
- ・中国では景気減速に加え、ローカルメーカーの台頭で競争環境が変化。

●当社の状況

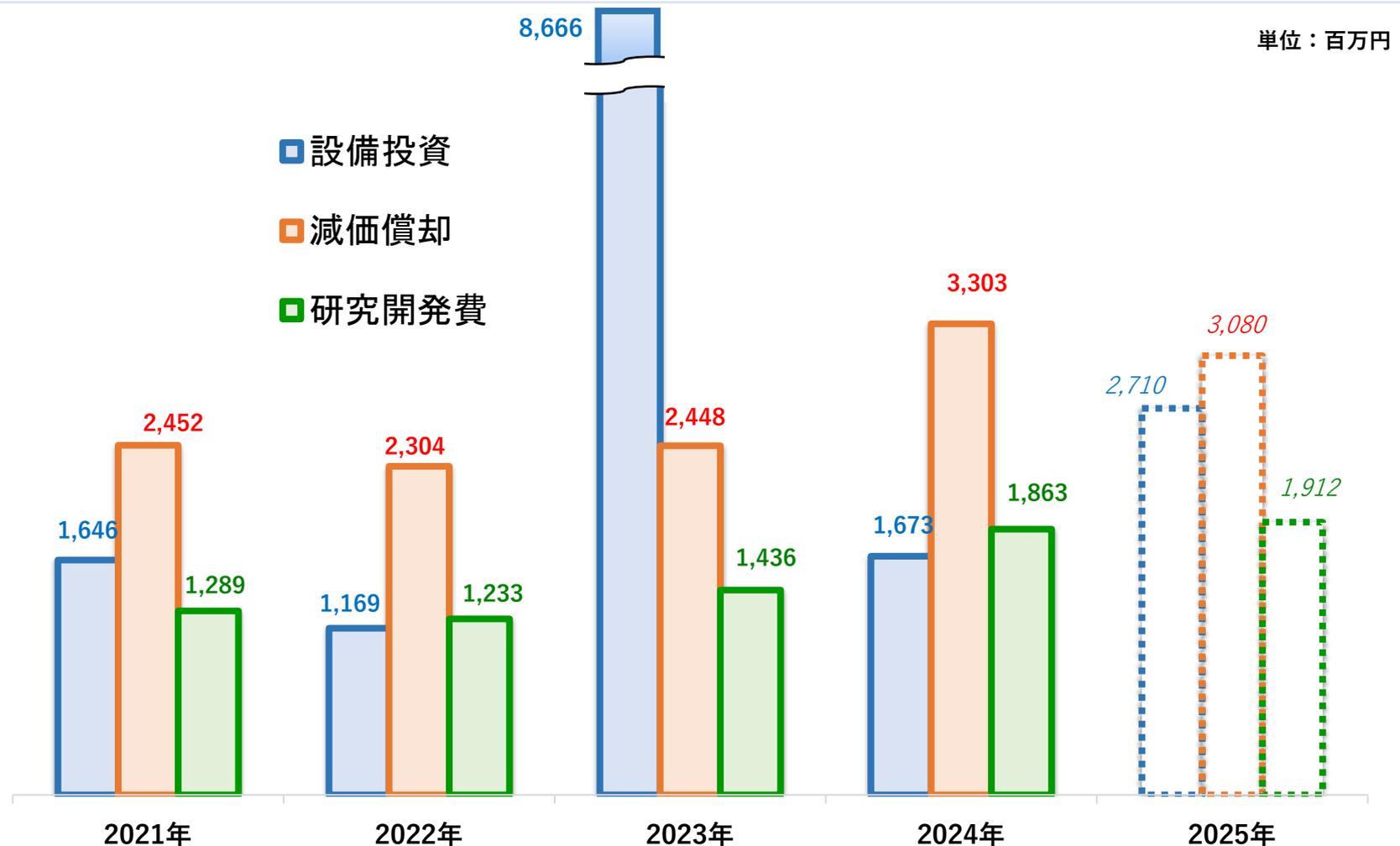
- ・化粧品原料は、価格競争で苦戦するが、積極的な海外拡販を継続する。
- ・機能材料は受託品が低調。
- ・子会社の特殊溶剤の販売は回復基調。

●市場におけるリスク

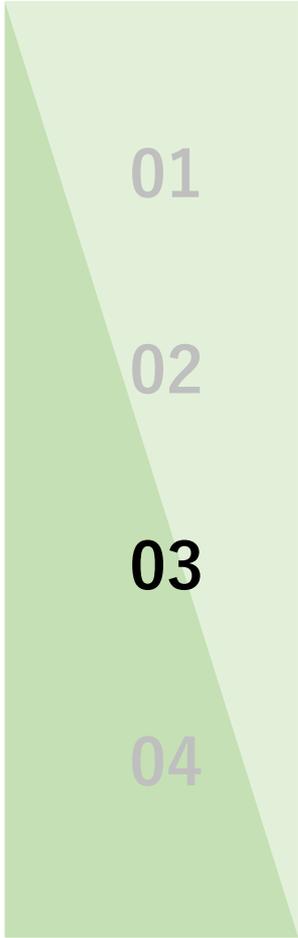
- ・中国市況回復の遅れ。



2025年の設備投資は27.1億円を計画しており、化成品事業の主力製品を中心とした設備増強を行います。減価償却費は約2.2億円減少し30.8億円、研究開発費は19.1億円（売上高比：5.6%）と見込んでおります。



*点線は通期予想



01	2024年11月期 決算概要
02	2025年11月期 業績予想
03	企業価値向上のための取組み
04	参考資料

中期経営計画(P&D 2030)

Progress & Development 2030

Stage 1 (3年間：2024年～2026年)

- NS-10の計画から成果を得る。
- Stage2 へ向けた計画、育成を行う。

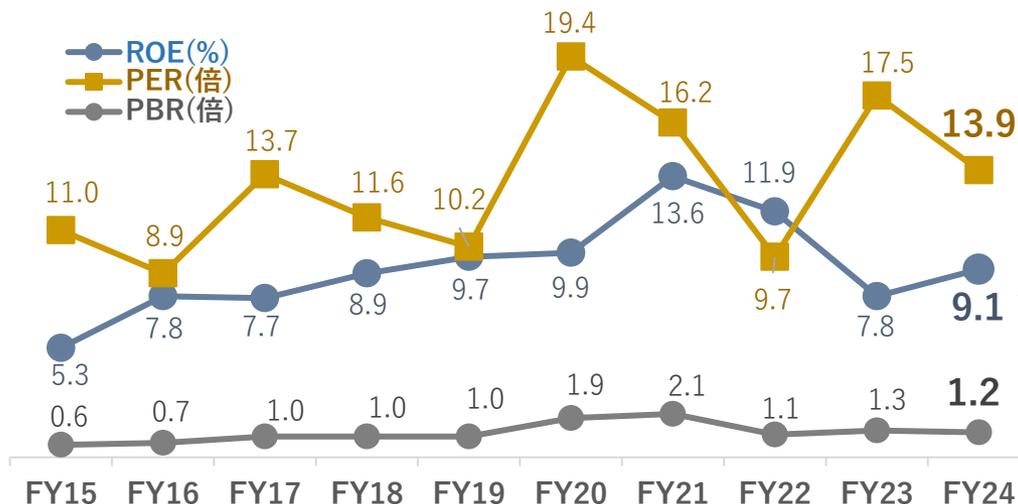
Stage 2 (4年間：2027年～2030年)

- Stage1の計画から成果を得る。
- 次期中計への成果へ向けた計画、育成を行う。
- NS10、P&D2030で育てた新事業を拡大する。

	2023年11月期 実績	2024年11月期 *1年目実績	2025年11月期 *2年目予想	2026年11月期 Stage 1 目標	2030年11月期 Stage2目標
売上高	289億円	326億円	340億円	400 億円以上	500 億円以上
営業利益	35 億円	46 億円	50 億円	56 億円以上	75 億円以上
営業利益率	12.4 %	14.1 %	14.7%	14 %以上	15 %以上
戦略投資・事業投資	—	16億円	27億円	累積 300 億円以上	
ROE	7.8%	9.1 %	—	10 %以上	12 %以上
ROIC	5.4 %	6.6 %	—	8 %以上	9 %以上
配当性向	36.6 %	34.5 %	41.1 %	40 %目安	

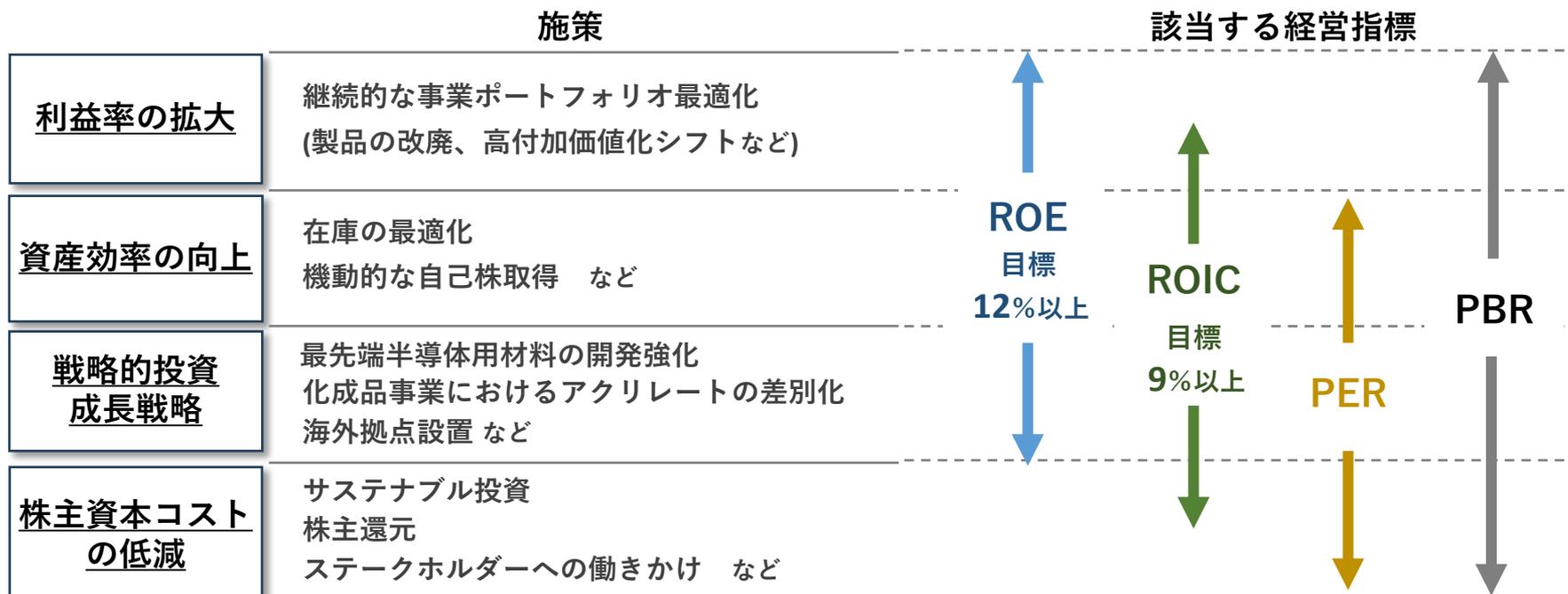
企業価値向上のための取り組み

中期経営計画と絡め、利益増大・事業効率化をし、ROE,ROIC向上を目指してまいります。



EPSの影響を受け上下に推移。
資本コスト低減により安定化に努める。

前中計にてポートフォリオ最適化をし、
ROEは向上(FY23は一時的に低下)。
現中計の下記施策により
ROE 12%以上, ROIC 9%以上を目指す。



重点領域において戦略的に投資を実施。事業拡大を推進してまいります。

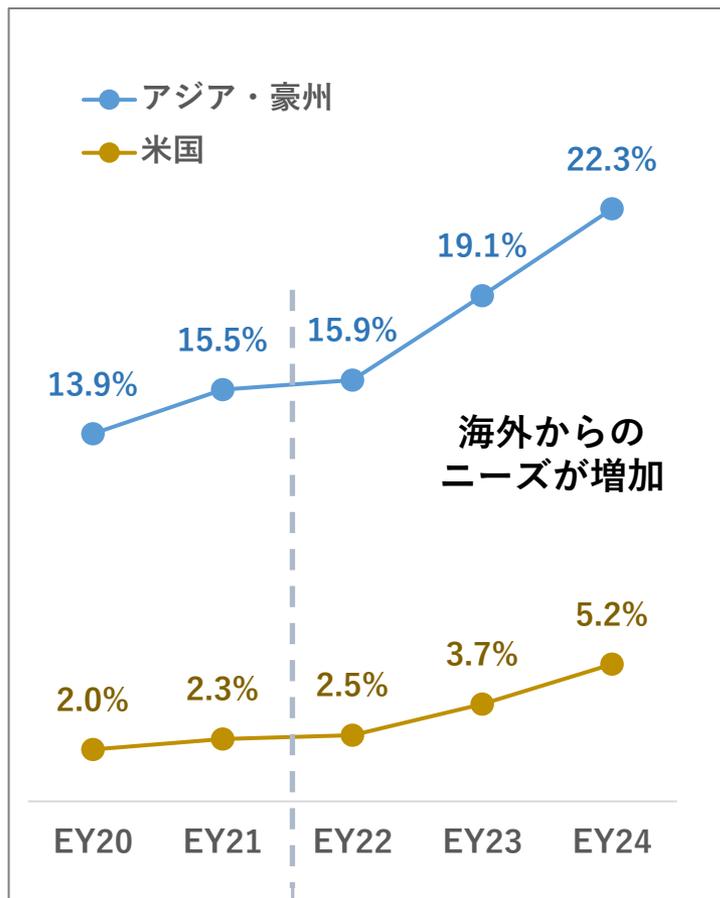
	目標	投資・施策
化成品	BRC* 100%バイオマスアクリレート の開発/上市	新プロセスによる新製品開発(大学との共同研究)
	主力製品 4-HBAの供給体制強化	新規製造プラント建設 プラントの生産能力強化
機能化学品	水溶性ポリマーの用途展開	高機能化のための親水性材料 LAMBICの1液化 技術取得/展開 CMPスラリー材の開発(大学との共同研究)
電子材料	最先端半導体用材料の開発強化 周辺材、後工程材への展開	開発試作までのスピーディーな研究開発 既存製造設備の改造/強化
	ネガレジスト材の新規用途への展開	レジストの厚膜化、薄膜化、低温硬化対応
事業開発室	有機無機複合材、圧電材の上市/量産	大学、企業との共同開発推進 学会、展示会、メディア発表などでのニーズ開発
海外販売 の強化	海外市場への販売強化	北米拠点の設置 韓国、上海、北米拠点によるチャンネル戦略

*BRC : Bio Renewable Carbon

海外戦略の強化

2024年に韓国拠点を設置。さらに北米拠点設置を予定。中国拠点と共にアジア・アメリカへの拡販に注力し、海外販売拡大に努めてまいります。

〈海外売上比率 (%)〉



収益認識基準適用



2014年～
光碩(上海)化工貿易有限公司

北米への拠点設置も検討



2024年～
韓国大阪有機化学工業(株)



商号 : 韓国大阪有機化学工業株式会社
Osaka Organic Chemical Industry Korea Ltd.
所在地 : 大韓民国ソウル特別市
代表者 : 小笠原 元見(当社 事業本部長)
事業内容 : 有機化学薬品関連商材の貿易・販売等
資本金 : 800,000,000 ウォン
出資比率 : 当社 100%

事業成長と効率化によって利益を最大化し、
成長投資や株主還元により資源を適切に配分してまいります。

累積営業CF

約 600 億円以上

※経費計上投資等の調整後、
税金支払い前

- ・ 投資による事業成長
- ・ 海外戦略強化による事業拡大
- ・ 効率化/自動化による生産性向上

- ・ 有価証券売却など
- ・ 株主還元以外の財務CF

累積投資

約 300 億円以上

- ・ 成長投資 180 億円以上
- ・ 維持投資 120 億円程度

株主還元

- ・ 配当性向 40% 目安
- ・ 機動的な自己株取得

その他

- ・ 運転資本の増加
法人税
手元資金充当など

戦略的投資、成長戦略

- ・ EUV用原料製造強化
- ・ 中量実験設備設置
- ・ 4-HBA製造強化
- ・ 海外拠点設置など

サステナブル投資

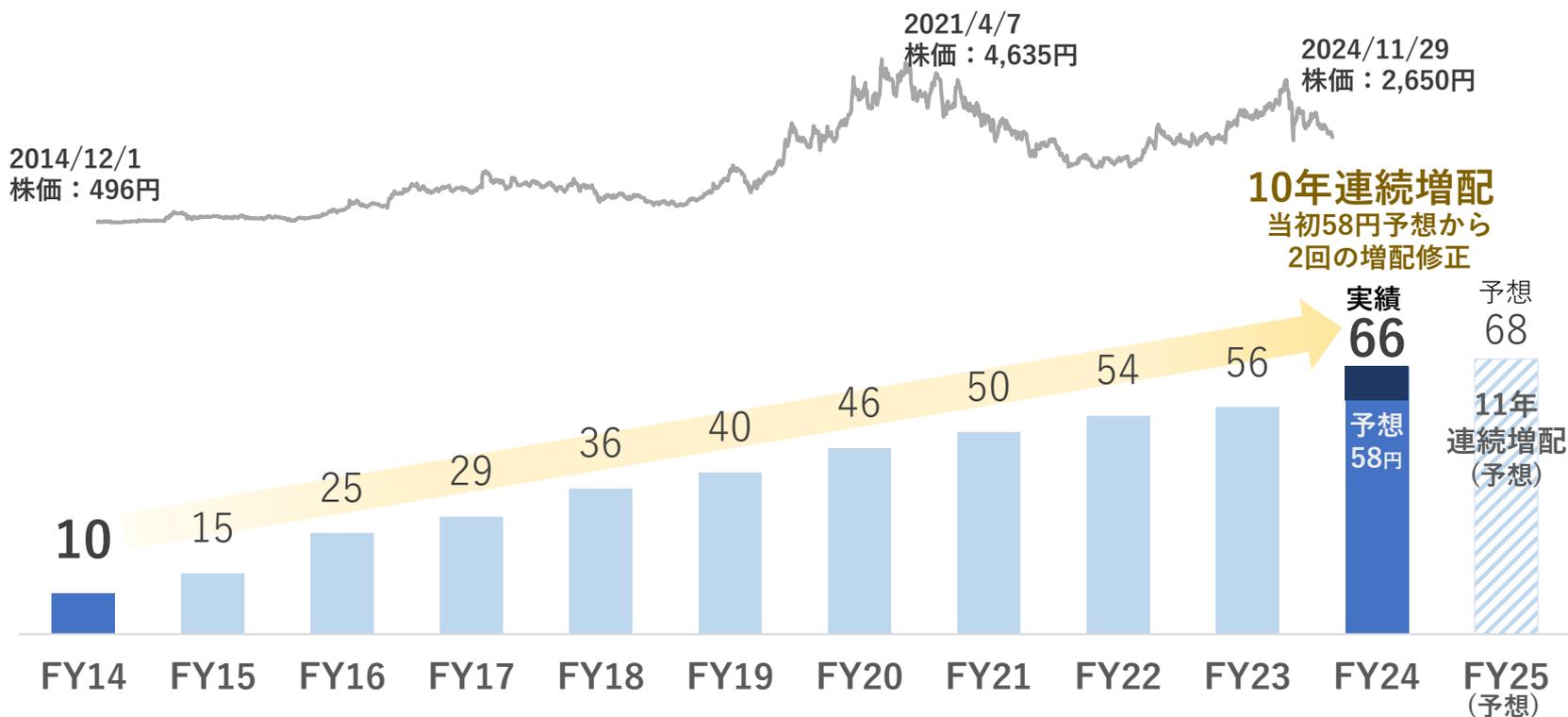
- ・ 廃油再利用ボイラーの建設
- ・ 新プロセスによる
アクリル酸エステル開発(共同研究)

2024年度実績

- ・ 配当：66 円 ※10年 連続増配
- ・ EPS：191 円
- ・ 配当性向：34.5 %
- ・ 自己株 143,500株取得

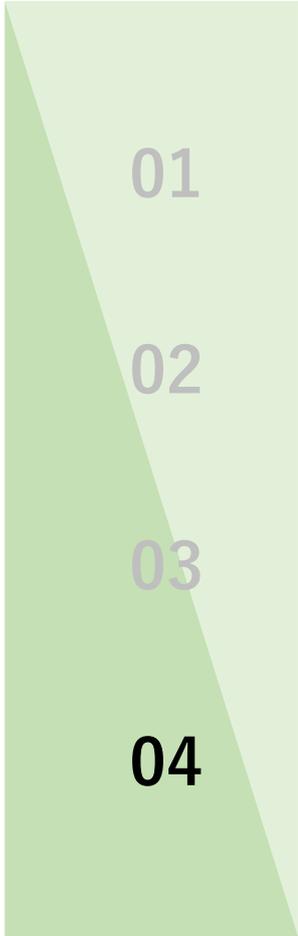
株主還元と株価の推移

2024年度は大幅に増配をし、株式配当を10年連続増配。2025年度も増配を予想。
配当性向 40%目安とし、機動的な自己株取得を実施しつつ株主還元向上につなげてまいります。



	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19	FY20	FY21	FY22	FY23	FY24	FY25 (予想)
--	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	--------------

年間配当	10円	15円	25円	29円	36円	40円	46円	50円	54円	56円	66円	68円
EPS	39円	57円	91円	97円	121円	137円	150円	226円	217円	153円	191円	175円
配当性向	25.7%	26.4%	27.5%	30.0%	29.8%	29.2%	30.8%	22.2%	24.9%	36.6%	34.5%	41.1%
総還元性向	25.7%	37.9%	36.4%	30.0%	46.5%	29.2%	30.8%	22.2%	60.7%	54.7%	45.0%	—
自己株 取得	-	-	336 百万円	-	449 百万円	-	-	-	1,698 百万円	598 百万円	426 百万円	-



01	2024年11月期 決算概要
02	2025年11月期 業績予想
03	企業価値向上のための取組み
04	参考資料

(百万円)

	2023/11	2024/11	増減額	主な内訳	金額
資産					
流動資産	27,101	34,287	+7,185	現金及び預金 売掛金	+5,156 +2,513
有形固定資産	20,443	18,415	△2,028	機械装置及び運搬具（純額）	△1,143
無形固定資産	102	73	△28		
投資その他の資産	6,988	7,188	+199		
負債					
流動負債	7,098	11,729	+4,631	支払手形及び買掛金	+2,122
固定負債	3,909	2,094	△1,814	長期借入金	△1,831
純資産	43,629	46,139	+2,510	利益剰余金	+2,773
総資産	54,636	59,964	+5,327		

財務指標	2024/11時点
自己資本比率	75.8%
手元流動性比率	4.2ヵ月
DEレシオ	0.08
ネットDEレシオ	-0.22
インタレスト・カバレッジ・レシオ	951

営業外損益

営業外収益は、昨年、為替差益と受取保険金があった影響で減少しました。

営業外費用は為替差損と寄付金などにより増加しました。

特別損益

特別利益は政策保有株式の売却などにより増加しました。

(百万円)

青字：利益増加要因
赤字：利益減少要因

	2023/11	2024/11	増減額	主な内訳	金額
営業外収益	313	205	△108	為替差益 受取保険金	△34 △72
営業外費用	13	60	+47	為替差損 寄付金	+20 +27
特別利益	587	815	+227	投資有価証券売却益	+228
特別損失	9	1	△8		

(百万円)

	2023/11	2024/11	主な内訳
営業活動によるCF	4,370	8,600	税金等調整前当期純利益 5,567 減価償却費 3,283 売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加) △2,655 仕入債務の増減額 (△は減少) 2,121 未払又は未収消費税等の増減額 1,231
投資活動によるCF	△4,127	△298	有形固定資産の取得による支出 △1,027 投資有価証券の売却による収入 1,054
財務活動によるCF	△476	△3,127	長期借入金の返済による支出 △1,771 配当金の支払額 △1,271
現金及び現金同等物に係る換算差額	58	△18	
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△173	5,156	
現金及び現金同等物の期末残高	7,890	13,047	

< 将来情報に関する注意事項 >

本資料の業績予想や経営計画は、現時点において見積もられた見通しや計画であり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績等は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071 (代表)



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証プライム：4187